

群馬県立吾妻特別支援学校 学校評価一覧表（令和6年度版）

（様式）

羅針盤				方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	吾妻サポート通信を、各学期に1回程度発行し、学校の地域支援についての取り組みについて、情報提供を行う。	地域支援部/教務部	吾妻サポート通信は、特別支援教育に関する知識理解を中心に紹介し、地域のニーズに合った情報を提供する。	A	/	A	学期に1回ペースで案内・通信を地域に配布した。地域の各機関も案内・通信を見て派遣依頼に活用した。	良い実践をしていて感心している。活動を広く地域の方々にも広報し、身近に感じて頂けるとありがたい。	今後も地域の特別支援教育に関するニーズを通信に反映させていくこと。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	交流及び共同学習について、参加を希望した80%以上の保護者が子どもにとって有用であると感じている。	教務部	終了時などにアンケートをとる。アンケートにいただいた意見は、今後の実践にいかす。	A	A	A	今年度アンケートにおいては、92パーセントの保護者が有用性を感じているとの回答であった。	中之条幼稚園児と小学部児童との交流では、回を重ねる度にお互いの心が開かれ少しずつではあるが、交流する姿が見られるようになった。広い園庭・遊具・砂場・テラスで思い思いに遊ぶ園児とのかかわりが生まれてきている。	各児童・生徒に応じた交流方法の工夫及び改善が必要。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	小中学校等からの要請により、専門アドバイザーが個別の事例についての助言者や校内研修の講師を年間80回程度務めている。	地域支援部	相談記録の手交・心理検査報告等を通じた継続支援を行う。専門アドバイザーの活用方法を、通信やホームページで地域に周知する。	B	/	B	年間80回以上の巡回相談を実施できた。	6か町村の特別支援の中心となる方々と定期的に、対面だけでなくオンラインなども活用して地域の困りごとなどを相談できる体制があるとよい。	巡回相談を行っていることや案内・通信を地域に配布していることを、本校職員にも周知させること。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」に関して、作成における内容や業務としての取り組みやすさについて85%以上の職員が「適切である」と感じている。	教務部	計画立案の際に説明を明確に行ったり、作成に関して改善を行いながら書式を含め各計画をより充実させたりする。	A	/	A	今年度職員アンケートにおいては、「十分達成できた」「達成できた」合わせて100パーセントであった。今年度は、1年間の作成のタイムスケジュールを年度初めに提示した。	校外学習や実習等、地域との交流は、将来子ども達が社会生活を送るための第一歩として大変貴重な体験になると感じる。	1年間のタイムスケジュール表及び計画作成の際の記入例の改善をしていく。
		研修テーマに沿ったグループ別研修を通して個に応じた指導、支援の方法を研究している。	研修部	様々な視点から意見が出るよう学部縦割りの班で編成した授業改善会議をのべ15回行う。少人数編成の別班で実施したり、ICT機器を活用したりして、時間短縮を図る。	A	/	A	職員アンケートにおいて、約9割の職員がテーマに沿った研修が実施できたとの回答であった。		方法に関しては踏襲しつつ、アンケート内の意見を参考に改善していく。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	「個別の指導計画」に基づいた指導評価について、保護者の80%以上が満足している。	教務部	①個別面談等において保護者と共通理解のもと「個別の指導計画」の内容を保護者に伝える。 ②学期末に評価を保護者へ伝え、情報共有を図る。	A	A	A	今年度アンケートにおいては、「あてはまる」「よくあてはまる」合わせて96パーセントであった。	計画的な指導のもと、それらを受けての学習活動における教育的な充実を感じた。	8年度に予定されている県統一様式への変更への対応。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症の校内における感染拡大防止対策について保護者の90%以上が満足している。	保健安全部	①校内の感染症対策を見直し、現状に合った対策を実施する。 ②保護者に対して家庭における感染対策を依頼し、情報交換を密に行う。	A	A	A	感染症の流行時には、情報や対策など、オクレンジャーで保護者に通知することができた。	まだ世の中はコロナやインフル感染症など人と接し合うことも心配されるところであるが、活動を広く地域の方々にも理解してもらい、身近に感じて頂けるとありがたい。	今後も感染状況に合わせて校内の感染症対策の見直しを行い、感染症の予防に努める。
		学校におけるアレルギー再調理について、関係職員が理解を深め、月に1度再調理に関する資料を確認し、共通した理解の基、対応にあたる。	保健安全部	①摂食指導について校内研修を行う。 ②該当する児童生徒の健康状態について適宜情報の共有を行う。	A	A	A	摂食指導について、4月に職員向けの研修を行った。STに2回来校していただき該当する児童生徒の給食の様子を確認し助言をいただいた。	適切な対応ができている。	今後も必要に応じてSTの派遣を要請し情報の共有を行う。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	学校の危機管理マニュアルの見直しを行い、内容に合わせた訓練等を行う。（避難訓練3回・緊急時対応訓練2回）	保健安全部	避難訓練等の話し合いを行いながら、危機管理マニュアルの内容の検証や修正を行う。	A	/	A	避難訓練を小中学位校舎2回、高等部校舎3回実施、緊急時対応訓練を2回（5月、11月）実施して、危機管理マニュアルの確認をした。		今後も危機管理マニュアルの検証を行う訓練を重ね、全職員で共通理解を図り、必要に応じて修正を行っていく。
		いじめの早期発見、未然防止に向けた取組について、80%以上の教職員、保護者が満足している。	生徒指導部	①いじめ防止委員会を月1回程度設け、いじめ認知についての教職員の共通理解を深める。 ②いじめに関するアンケートを実施し、早期発見、未然防止に努める。	A	B	B	いじめ防止委員会は毎月行われた。また、職員間のいじめ研修も2学期から5回実施した。いじめアンケートは、学期ごとに3回実施をした。	各学部で行っている活動が外部の方へも伝わると良い。	今後もいじめ防止委員会を月1回程度設け「いじめの早期発見」「未然防止」に取り組んでいく。また「いじめに関するアンケート」の毎学期の実施を継続して行う。全職員でいじめの共通理解を図り、必要に応じて修正を行っていく。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	将来を見通すとともに発達段階に応じた進路指導を行うために、学部間での情報交換を年3回以上実施している。	進路指導部	進路指導部会で、各児童生徒の将来像を見据えた進路指導に関する情報共有や高等部卒業後の進路先について情報提供を行い、各学部に還元する。	A	/	A	児童生徒の様子や作業の取り組みについて年3回情報共有を行い、どのような発達段階かをお互いに確認できた。	「自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す」生徒の育成の実践で成果を上げられていること生徒、保護者にとって喜ばしい。社会に出たときの実践を様々な取り組みを通じて、学ばせてもらっている。	特別支援学校高等部卒業後の生活について、保護者と職員の理解が深められるようにしていく。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	1年生進路ガイダンス（地域支援NW相談会の機能に代わるもの）を年2回実施する。	進路指導部	特別支援学校高等部卒業後の生活についての講演や障害福祉サービスについての講演会に、本校だけでなく、郡内の特別支援学級児童生徒の保護者等へ対象を広げ、情報提供を行う。	A	A	A	障害年金と高等部卒業後の生活についての講演を実施し、情報提供をすることができた。	高校卒業後、様々な職業の場が開拓され協力いただいて生徒が選択できることがすばらしい。	特別支援学校高等部卒業後の生活やお金、知っておいて欲しい事などの講演会を企画し、幅広く講師選定を行っていく。